

ドキュメンタリーの視覚1

鈴木一誌

気鋭の映画評論家としても知られるデザイナーが
古典的作品から「記録映画をどう観るか」を探る新連載。

新連載

小特集

国家の組成とヤクザの仕組み

標準的官僚のための国家論評釈

柄谷行人著『世界共和国へ』を読む

佐藤優

論議を呼ぶ『世界共和国へ』が提示したものは何だったのか。
「外務省のラスプーチン」の異名をとる起訴休職外務事務官が
標準的官僚「でも」分かる言葉で論究する、そのエッセンス。

小特集1

小特集2

どこから出発し、どこに進めばいいのか
「組つまり組む」ということ

宮崎学

神戸港の日雇い港湾労働者組合の組織化を推進した
三代目山口組田岡雄組長の半生から浮かび上がる、
地域共同体の自治機能としてのヤクザとそのあり方の変遷。



特集

苦い砂糖が生まれた理由
砂糖の市場と農園の過去・現在・未来

34

大航海時代に開始された砂糖の大規模生産・消費は、南北格差を拡大させつつ現在に至り、
「苦さ」を含む世界商品であり続けている。いまなおフィリピンの主要産業である砂糖生産は、
その中心地ネグロス島の季節労働者による時給10円の労働で支えられている。
数百年続く世界資本主義の巨大な運動力を冷静に認識し、対抗運動を構想するために。



特集1

近代世界システムの中の砂糖

「世界で最初の工業化」の要因

川北稔

その消費量が生活水準の指標ともなった世界商品「砂糖」。
植民地でのプランテーション栽培を必要とするにいたった
砂糖消費の歴史から例証される近代世界システムの成立。

特集2

世界の砂糖生産と貿易——二〇世紀中の推移

アジアを中心に統計から見るその盛衰

加納啓良

近世に入って拡大した砂糖の生産・消費は、二〇世紀以降も
劇的な変動を見せた。各国の詳細な統計データにもとづいて、
生産諸国を中心に、国際貿易の変容を実証的に検討する。

特集3

サカダ——フィリピン糖業の奥底から

ネグロス島砂糖農園で働く人々の階層構造

大河原哲

日給百円余りでフィリピンの厳しい砂糖農園労働に従事する
季節労働者「サカダ」。地主・管理者・労働者という各階層の
証言を通して砂糖が生産される現場の様相をレポートする。

特集4

フィリピン農地改革における「外部アクター」の役割

西ネグロス州エスペランサの事例から

堀芳枝

苛烈な闘争を経て土地を獲得したネグロス島の農民組合。
その運動を成功させた要因には、彼らの強靱な意志の他にも
外部支持者の存在があった。連帯の歴史記録の後篇。

特集5

バイオエタノールは砂糖産業の救世主となるか

その生産の拡大と世界市場の動向

北林寿信

バイオエタノールが温室効果対策として注目される一方で、
需要拡大から原料となる砂糖の価格高騰を引き起こしている。
生産の現状分析から世界の砂糖市場の将来を展望する。

連載

ケアの社会学

第六章 市民事業体と参加型福祉

上野千鶴子

105

「介護事業への参加」が望まれるとしても、誰がどのように参加するのか。NPOに代表される事業体とその参画の仕方を定義し直すところからはじめる、好評連載の現場調査。

連載

『世界共和国へ』に関するノート(3)
国家以前

柄谷行人

132

家族を単位とした国家以前の社会構成体から高次の共同体を生成させる互酬交換様式は、しかし国家や貨幣経済の形成を阻害もする。「戦争」をも含む互酬交換を明解に分析する論考。

映画紹介

『映画は生きものの記録である』によせて

熊谷博子

96

記録映画界を代表するドキュメンタリー作家・土本典昭本人を追ったドキュメンタリー「映画は生きものの記録である」。

映画紹介

カメラがつくり出す新しい関係
梁英姫監督『ディア・ピョンヤン』を観て

向井徹

99

在日コリアンの監督が、総聯幹部である父との相克を描いた映画『ディア・ピョンヤン』。「撮る」ことを通じて浮き上がる民族の歴史と親子の隔たり、そして新たに築かれる関係とは。

デザイン覚書7 年間100アイテム

鈴木一誌

147

『E』7号に書いた／語った人たち

148

編集後記・次号予告

149

写真・図版提供、協力

©2005 Yonghi Yang / Chron, Inc.

毎日新聞社

メディアアートラックス